

企業名：日精樹脂工業

レポート名：「統合報告書 2024」

1. この会社が目指す姿が理解できるか（将来）

同社が目指す姿は明確に理解できるが、実現可能性には疑問が残る。同社が掲げている経営理念は「プラスチックを通して人間社会を豊かにする」であり、この理念に基づいて企業活動を展開している。統合報告書からは、同社は単なる射出成形機メーカーに留まらず、「世界初の成形プラットフォーム企業」への進化を目指していることが読み取れる。成形プラットフォーム企業とは、射出成形機や関連ソフトを開発・販売するだけでなく、顧客の工場レイアウト設計や生産プロセスの支援、材料の供給、専門人材の育成に至るまで包括的なソリューションを提供する企業像である。これは、同社が製品提供だけでなく顧客の価値創造全体を支える存在になることを志向していることを意味している。以上のように、射出成形機の専門メーカーである専門性を活かして、社会に貢献しながら付加価値を高めていくという成長コンセプトは理解できるし、非常に素晴らしい目標だと思う。一方で、収益性が追いついていないという実態がある。同社は現在、棚卸資産回転率の低さから BS が肥大化し、支払利息の増加等によって利益が圧迫されている。直近数年間で、経営理念のとおりプラットフォーム企業を目指した施策を行なっているものの、収益性は向上していない。そのため、株主からの納得を得るためには、この目標に沿った経営によってどのようなロジックで業績が成長していくのかという、数字との結び付きをより強くする説明する必要があると感じた。

2. この会社の競争優位性が理解できるか（現在）

明確に理解できる。統合報告書では、以下の3つの強みが説明されている。

1つ目の強みは、世界5極（日本・中国・タイ・米国・イタリア）にわたる生産拠点による世界同一の品質保証体制だ。同社は第五次中期経営計画において、この5極生産体制による安定的な製品供給とグローバルで統一された品質保証の強化を進めていると述べている。世界各地に生産拠点を持ち、いずれの拠点でも同じ品質基準で製品を提供できる体制は、顧客にとって安心感を与え、競合他社に対する優位性となっている。さらに各工場の近隣で部品を現地調達する「地産地消」により、輸送コストの低減も実現し、コスト競争力と供給安定性の両面で強みを発揮している。

2つ目の強みは、独自の技術力とソリューション提案力だ。同社は射出成形機の専門メーカーとして長年培った高度な成形技術を持ち、それを生かした差別化技術を有している。例えば統合報告書では、独自の低圧成形技術や DX・IoT 技術を活用した提案型営業をグローバルに展開し、顧客の生産性向上や省人化といった課題解決に貢献していると述べられている。実際に、成形工場の IoT 化（N-Constellation など）や AI を活用した自動化・省エネ技

術、環境対応素材への対応など、先進的な技術開発に取り組んでいることが報告書から伺える。同社は単に設備を売るだけでなく顧客の利益創出まで考えた技術ソリューションを提供できる点がプロダクト面での競争力の源泉となっている。

3つ目の強みは、人材と組織力である。日精樹脂工業は「国内唯一の射出成形機専門メーカー」であり、社員全員が自社の技術・製品を細部まで熟知していることが大きな強みだと社外取締役も評価しています。高度に専門的な製品について社員一人ひとりが誇りと責任を持っており、顧客の現場課題に対して誠実かつ真摯に技術追求する姿勢（いわゆる「日精らしさ」）が、顧客からの信頼や的確な対応・品質向上につながっていると指摘されている。このような熟練した人材基盤と社内ノウハウの蓄積は、他社にはすぐには真似できない長期的な競争優位の源泉となっている。

以上のように、統合報告書の中で競争優位性について詳しく解説されており、十分に理解することができた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか（変化）

理解できる。同社の競争優位性の持続性は、主に外部環境への対応と人的資本の強化によって達成される。アジア系メーカーの台頭により価格競争が激化する中で、品質の安定化やソリューションの提供で付加価値を向上させ、価格競争に巻き込まれないポジショニングを築こうとしているのは持続的な競争優位性である。さらに、高付加価値の達成のために人的資本の強化を積極的に説明しており、そこから長期的に優位性を維持する意図が理解できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

向上心が強ければ達成できると思う。同社は人材の育成に非常に力を入れており、社員が成長するための恵まれた環境が整っている。一方で、給与面での待遇には一定の不満が持たれており、限られた給与でどれだけモチベーションを維持できるかが成長（人的資本の価値向上）の鍵である。同社は統合報告書の中で人材育成方針として1.人材の採用、育成、確保、2.ダイバーシティの推進、3.働き方改革、健康経営の実践を掲げている。一つ目では優秀な海外人材の採用のためにボストンキャリアフォーラムに参加したり、コンプライアンス研修・海外赴任前研修・社内語学研修をはじめとした多様な研修制度を構築したりしている。三つ目では育児・介護支援をはじめとした支援により長期的に働きやすい職場環境を目指している。以上のように働きやすく、成長を目指せる環境が整っている。一方で、openworkで口コミを見ると年功序列に偏った給与制度と同業他社に比べて低い給料が指摘されており、給料が上がりにくい中で成長のモチベーションを維持できるかは疑問が残る。また、コンプライアンス研修で下請法について教えていると統合報告書で明記しているにも関わらず、2025年5月に下請法違反で公取委から勧告を受けており会社説明と実態の乖離が疑われる。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

良かった点：全体として、本統合報告書は非常に内容が充実しており、企業の現状と戦略、そして環境・社会への取り組みまでバランスよく網羅されていると感じた。まず、会社のビジョンや経営理念が明確に示されている点は大きな長所である。冒頭から「世界の日精 プラスチックをととして人間社会を豊かにする」という理念が何度も強調され、それが具体的にどのような戦略や活動に落とし込まれているかが丁寧に説明されている。社長メッセージでも中長期ビジョンとして成形プラットフォーム企業への進化が語られ、経営計画やマテリアリティの章でも理念と戦略のつながりが示されており、読んでいて企業の方向性が把握しやすい構成になっていた。また、好みが分かれるところではあるが、文字量が非常に多かったのが自分には良かった。その分、情報量も多く企業への理解を深めることができたからだ。

改善余地：一方で、いくつか改善を望む点もある。第一に、専門用語や技術的な記述がやや難解に感じられる部分があったことだ。射出成形機の技術に関する説明や IoT ソリューション（例えば OPC-UA や AI チャットボットによる遠隔診断などの項目）では、業界に馴染みのない読者には理解が難しい用語も散見された。統合報告書の主な読者は投資家やステークホルダーであるが、大学生を含む一般の読者にも読みやすくするため、技術的な内容には注釈や図解を付けるなどの工夫があれば尚良いと感じた。例えば、低圧成形技術や PLA 樹脂の説明について、もう少し平易な言葉で背景を説明したり、専門用語の簡単な定義を補足していただけるとさらに理解が深まったと思う。

参考文献

日精樹脂工業 統合報告書 2024

<https://www.nisseijushi.co.jp/ir/library/integratedreport/pdf/integrated%20report%202024.pdf>